

PS-051-2 女性気胸に関する検討(肺嚢胞性疾患3,  
第24回日本呼吸器外科学会総会号)

著者	金井 義彦, 手塚 康裕, 山本 真一, 大谷 真一, 長谷川 剛, 佐藤 幸夫, 蘇原 泰則
雑誌名	日本呼吸器外科学会雑誌
巻	21
号	3
ページ	431
発行年	2007-04-11
権利	日本呼吸器外科学会
URL	<a href="http://hdl.handle.net/2241/00134216">http://hdl.handle.net/2241/00134216</a>

## PS-051-2 女性気胸に関する検討

自治医科大学外科学講座呼吸器外科部門

金井 義彦, 手塚 康裕, 山本 真一, 大谷 真一, 長谷川 剛,  
佐藤 幸夫, 蘇原 泰則

【目的と方法】自然気胸の多くは若年男性に発症し、女性では比較的まれとされている。また、女性気胸においては、男性に比べて続発性気胸の可能性を考慮する必要があるとされている。今回我々は、2002年1月から2006年11月までに当科にて入院、加療を施行した女性気胸症例に関して、臨床的に検討した。【結果】対象となった症例は26症例で、同期間における気胸症例全体に占める割合は11.4%だった。平均年齢は32.3歳で、体型に関しては平均身長157cm、平均体重46.8Kg、BMIは平均18.8と、痩せ型の症例が多く見られた。左右別では右15症例、左11症例で、両側同時発症の症例は認めなかった。基礎疾患を有する症例は8症例(30.8%)みられた。入院時の発症回数に関しては、初発が18症例、再発が8症例で、そのうち術後再発症例は5症例だった。この5症例のうち、基礎疾患を有するのは4症例だった。【結論】女性気胸でも男性同様に痩せ型の若年者で自然気胸として発症する割合が高いが、続発性気胸症例も少なからず認めるため、治療に際してはこういった点に関して十分留意する必要があると思われた。